



詩篇第一卷
詩篇12-31篇

詩1巻. 2集. 3集. 2012.6.6

<p>19. 義道</p> <p>◀ a. 主の声</p> <p>22a/b 力王 27-31</p> <p>◀ c. 主に信頼し奉る者</p> <hr/> <p>24 力王 まよひて</p> <hr/> <p>26 感謝 涙をすすぐ</p> <hr/> <p>28 願声</p> <p>◀ b. 呼巻 敵が移る</p> <p>30 感謝</p> <p>◀ d. 死から救われる</p>	<p>1-11: 幸 善報と200 (主)</p> <p>12-18: 主は岩. 主は受ける分. (主) 主は信頼すべき岩.</p> <p>19-31: 王は羊飼. 主の家に住む. (主) 岩なる牧者に信頼せよ. 32-41: 幸 祝福と200 (主)</p> <hr/> <p>12-18: II 70 IL 22 (Ps 18) 主は岩. / 申32: 主は岩 II 70 IL 23: びびるの最後のことば / 申33: モテの最後のことば</p> <p>19-31: I 歴. 16: 契約の指しことばを賛美. / 37-45 I 歴. 17: 主の家と与える. (契約と祝福) / 37-45 (Ps 27, Ps 31)</p> <hr/> <p>地の王が王と戦う. 19-25. 王は羊飼. 王の力 罪赦(義)</p> <p>26-31. 主の家に住む. 願いの声 感謝の声 天の民が賛美する 王民)</p> <p>地の王が天の主に進む 12-17. 主は受ける分 ×偽話. 主は喜ぶ楽い.</p> <p>18. 主は岩. 主は力 敵に復讐(義) 主は天から復讐する 主)</p>	<p>13 喜樂</p> <p>◀ b. 敵と戦はる</p> <p>15 舌唇</p> <p>◀ d. 義はまはりにしむる</p> <p>17 舌唇</p> <p>主は受ける分</p> <p>18 復讐 46-50 主は岩</p> <p>18 救い 20-29</p> <p>◀ d. 義はまはりにしむる</p> <p>18 復讐 37-45</p> <p>◀ b. 敵と戦はる</p>	<p>12. 古</p> <p>◀ a. 20</p> <p>14. 喜</p> <p>◀ c. 天</p> <p>16. 喜</p> <p>主は</p> <p>18. 救 1-5 主は</p> <p>18 復 6-19</p> <p>◀ c. 天</p> <p>18 救 30-36</p> <p>◀ a. 20</p>
---	---	---	---

詩篇第1巻2集と3集の分析をしてきましたが大変でした。

12から18が第2集、19から31が第3集。12から18は、主は岩、主は受ける分。19からは、王は羊飼、その羊飼いの家に住むというのが全体の流れです。主は信頼すべき岩である、岩なる牧者に信頼しなさいという信仰の戦いを励ます段落になっていると思います。

<p>28 願声</p> <p>◀ b. 呼巻 敵が移る</p> <p>30 感謝</p> <p>◀ d. 死から救われる</p>	<p>地の王が王と戦う. 19-25. 王は羊飼. 王の力 罪赦(義)</p> <p>26-31. 主の家に住む. 願いの声 感謝の声 天の民が賛美する 王民)</p> <p>地の王が天の主に進む 12-17. 主は受ける分 ×偽話. 主は喜ぶ楽い.</p> <p>18. 主は岩. 主は力 敵に復讐(義) 主は天から復讐する 主)</p>	<p>18 救い 20-29</p> <p>◀ d. 義はまはりにしむる</p> <p>18 復讐 37-45</p> <p>◀ b. 敵と戦はる</p>	<p>18 復 6-19</p> <p>◀ c. 天</p> <p>18 救 30-36</p> <p>◀ a. 20</p>
---	--	---	---

それぞれこの2集3集を大きく2つに分けたのが下の段です。12から17は「主は受ける分」、18は「主は岩」、19から25は「王は羊飼い」、26からは「主の家に住む」というこちらは、羊飼いで、こちらは、羊たちという主の牧場に住むということになります。

右下、天から答える(c右上)、天から答える(c右下)、敵を滅ぼす(b左上)、敵を滅ぼす(b左下)、義しきよきに従って(d左上下)というように、上と下が並行しています。

20/21 力王	19. 義道
▶ b. 呼答 敵から救う	◀ a. 主の声
23. 義道	22a/b 力王
▶ d. 災いから救われる	◀ c. 主に信頼して恥をみない
25. 義道 主と侍従 信頼	24 力王 主と侍従
27 呼声 主と侍従 及侍従	26 感謝 侍従と侍従
29 感謝	28 願声
▶ a. 主の声	◀ b. 呼答 敵から救う
31 願声	30 感謝
▶ c. 主に身を避ける者は恥をみない	◀ d. 死から救われる

今度19から(右図)のところも前半4つと後半4つが並行しているのですが、abcd…さっき(右図)とはちょっと形が違います。abcdが今度は前後が入れ替わっています。このac(右上)がこちら側(左下)にきて、bd(左上)がこちら側(右下)にきています。さっき(右図)は上の2つと下の2つ、真ん中と真ん中という形でしたけれど、今度(右図)は縦に切れていますね。それが鏡のように裏返しになって、主の声(a右上)、主の声(a左下)、呼ぶと答えて敵から救う(b左上)、呼ぶと答えて敵から救う(b右下)、主に信頼して恥をみない(c右上)、主に身を避ける者は恥をみない(c左下)、死から救われる(d右下)、災いから救われる(d左上)というように前半後半が順番が入れ替わっています。

20/21 力王	19. 義道
▶ b. 呼聲 敵が来る	◀ a. 主の声
23. 義道	22a/b 力王
▶ d. 主の叫びから救われる	◀ c. 主に信頼し主を待ち望む
25. 義道 主を待望、信頼	24 力王 主の叫び
27 呼聲 主を待望、恐れ	26 感謝 救われる
29 感謝	28 願声
▶ a. 主の声	◀ b. 呼聲 敵が来る
31 願声	30 感謝
▶ c. 主に信頼し主を待ち望む	◀ d. 死から救われる

13. 喜楽	12. 古厩
▶ b. 敵を倒れる	▼ a. みことばは純粋
15. 古厩	14. 喜楽
▼ d. 義は、まよひにしがた	▼ c. 天から答える
17. 古厩 主は岩である	16. 喜楽 主は岩である
18 復讐 46-50 主は岩	18. 救い 1-5 主は岩
18 救い 20-24	18 復讐 6-19
▲ d. 義は、まよひにしがた	▲ c. 天から答える
18 復讐 37-45	18 救い 30-36
▲ b. 敵を倒れる	▲ a. みことばは純粋

12からのあんこ部分16から18の2つの段落は、横に共通しています。主は岩、主は受ける分であるというテーマが特に横に共通しています。主は羊飼いで主の家に住むという話は、縦に共通しています。24と26、25と27というような形で並行しているものです。長さも似ているかもしれないと思います。「主に信頼して主を待ち望む者は神様の道に歩いて恐れがない」ということと、誰が王様なのかということと「清く歩む栄光の王が入ってくる」というところが誠実に歩む義なる王であるというのが縦になっています。

真ん中の中心的なテーマの形と並行の形が似ている形で並行していますが、(左図)前半の段落と後半の段落が(縦で左右と)並行しているというところと、こちら(右図)は上と下で並行しているということをよく見て、みことばが純粋だということの内容と、主は岩であること、主は受ける分であるということがどう関係があるのかということは何階層かに分けて見るとということが正しい読み方かと思われまます。

他にも並行しているところがいっぱいありました。(27)ヨシュア記で恐れなしがあり、(31)ヨシュア記で終わっているとか、(29)感謝の歌を捧げる、(30)感謝の歌を捧げるところは、歴代誌の箇所ですとか…。他の箇所も見て、目が回ってください。おわり。